生物多様性緑化　－人工斜面に自然植生が再生できるか－

講師　大阪府立大学生命環境科学研究科　藤原宣夫　先生

場所　生物実験室

【内容】

　のり面という人工的な環境をいかに自然植生に再生できるかという観点で説明を受けた。導入として、なぜのり面ができるのかという点で昔の東名高速道路や各地の高速道路で造成されたのり面の数年後から40年後の現在までの変遷を写真を用いて解説していただいた。その際用いられた外来種の植物の現状、外来種を用いることで現在生じている状況の説明を受け、外来種にどのような種類があるのか、さらに日本と中国を行き来するうちに単純に外来種といえない事例などを具体的に解説していただいた。さらに、外来種に頼る工法の反省から、在来種の育成が検討され、現在の工法にいたっていることが順序立てて説明された。しかしながら、在来種を用いる工法はいずれも費用がかかることから公共工事などはコストが大きな要素になるのでなかなか自然植生に戻す工法はいずれもコストが割高なので、その採用が困難であるとの現状も教えていただいた。

最後に生徒から「3000年ほど前に日本に入ってきた外来種というのはどのように調べて分かったのか」という質問が出たが、中国へ行った日本の植物学者が日本の植物の一部が中国のものと同じであることを気づき、いろいろ調べて3000年ほど前に稲作と一緒に日本に導入されたということが分かった。丁寧な説明でわかりやすかった。

【生徒の感想】

・斜面を守るために外来種の植物を多く使うことは知らなかった。
・のり面の再生についてよく分かった。今後高速道路を通ったらのり面を見てみたい。
・普段見慣れている草でも,外来種がたくさんあるんだと分かった。
・のり面の緑化にはたくさんのことが考えられているんだと思った。
・日本から外国へ出て被害を出している植物があるのを初めて知った。(クズ)
・のり面をつくらないことがベストなのかなと思った。